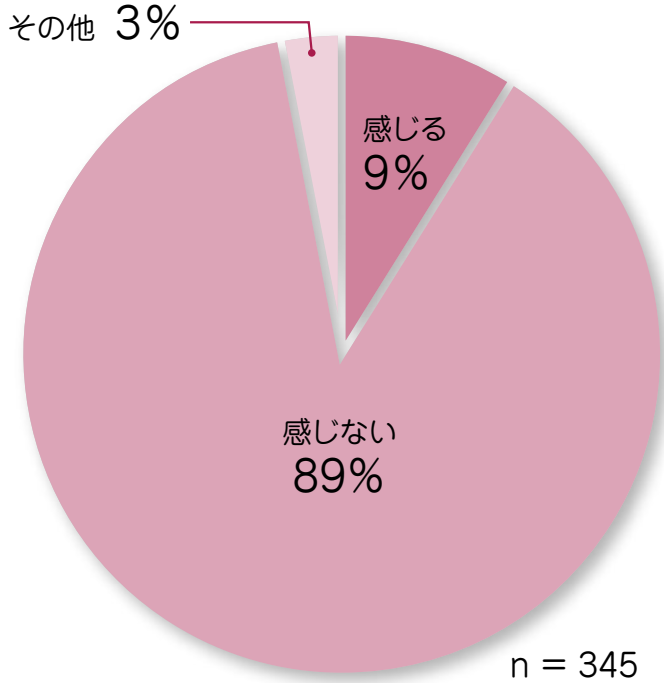


## Q. 年齢を重ねたことで、以前に比べ SMBG の操作が難しくなったと感じますか？



左ページで紹介したように、スタッフは高齢の患者さんへの SMBG 指導に困難を感じている方が多いという結果でしたが、患者さんへの質問の結果はそれと対照的です。測定手技を一度覚えてしまえば、加齢による影響はそれほど大きくないということなのかもしれません。

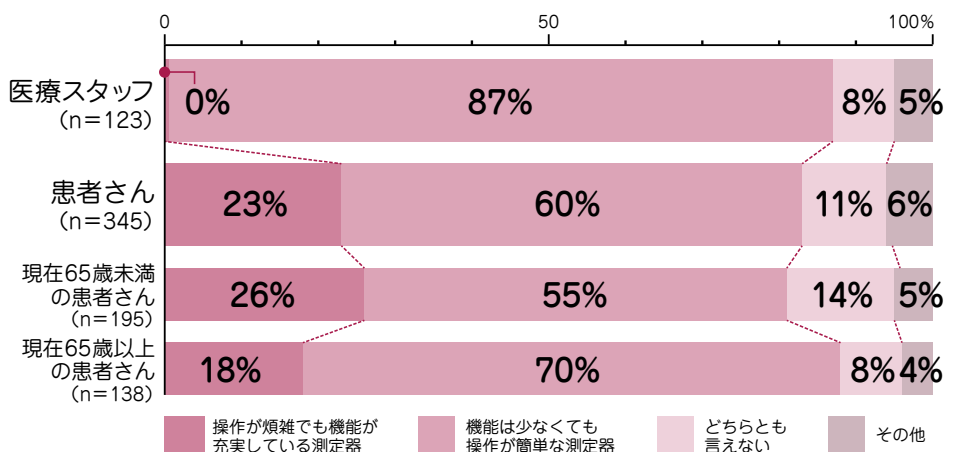
ただし、このアンケートは現在 SMBG を行っている患者さんに回答いただいたものであり、既にご自身での施行が困難な患者さんは含まれていませんから、少し解釈に注意が必要かもしれません。また、このような条件下のアンケートでも 1 割程度の方は、以前から続けている SMBG が加齢によって困難になってきているという点は、意外に気づきにくい療養指導上の注意点と言えるでしょう。

なお、この質問に「難しくなったと感じる」と答えた方 (n=30) に、具体的な理由を複数選択可で選んでいただいたところ、「目が見えにくくなってきた」を 61%、「手が震えたりこぼったりして、細かい操作やスムーズな操作が難しくなった」を 32%、「耳が聞こえにくくなって操作音がわかりにくくなった」を 14% の方が選択されました。

## Q. あなたが血糖測定器を選ぶとしたらどちらの測定器を選びますか？

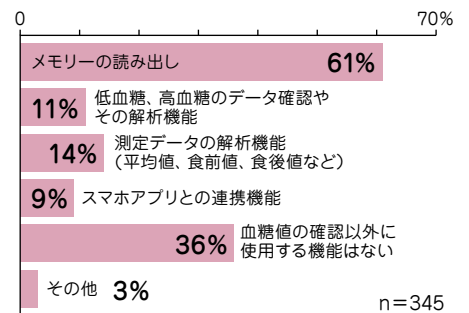
左ページに記したように、これと同じ内容の質問をスタッフに対しては「高齢患者さんに用いる場合は」という前提で答えていただきました。結果は下の帯グラフに示すとおりです。

患者さんからの回答はスタッフよりもやや「機能優先派」が多いものの、両者ともに「簡単操作優先派」が多数を占め、特に高齢の患者さんではその傾向がより強くみられました。



## Q. 血糖値を確認する以外に使用する機能はありますか？ (複数選択可)

現在の血糖測定器はただ単に血糖値を測るだけでなく、さまざまな解析機能や通信機能などを備えています。患者さんがそれらをどのくらい使いこなしているのかを質問してみたところ、「メモリーの読み出し」は 61% と比較的よく使われていることがわかりました。しかし二番目に多かったのは「血糖値の確認以外に使用する機能はない」(36%) で、やや意外(?) な結果でした。'その他' の記述には、「血糖測定以外にどのような機能があるか知らない」という回答が複数みられました。



### 自由記述から

特に低血糖の時、頭がよく回らなくなる感じで細かい作業がやりにくくなるので、この先もっと歳をとったときのことが心配 (40代、1型女性) / 視力が低下して針にキャップをかぶせるのが一苦勞 (40代、2型男性) / 採血針交換時の針深度調整が難しい (60代、2型男性) / 高齢になると指先での採血時穿刺吸引が難しくなる。穿刺器具のいいのがないかと思う (70代、2型男性) / 視力が低下したら血糖自己測定は不可能だと思い不安になる (40代、1型女性)